

引き継がれて行く
建物とその想い。



福岡市 春吉にある、一軒の美容室の物語

「テル美容室物語」

既存の建物を次代へと引き継ぐには、
建物の歴史や価値、持ち主の想いを
正しく理解する人と人との出会いが大事。
スペースRデザインが手がけた『テル美容室』も、
良い人の縁に導かれ、新しい物語の幕を開けた。



店名も先生の想いも引き継いで、新しい挑戦を。

《Pluss teru biyousitsu 代表》新銅輝彦さん



今 泉で『Pluss』という美容室を営んで11年、2013年9月14日に2店舗目の店『Pluss teru biyousitsu』をオープンしました。最初は1店舗目と同じ今泉や大名、警固で検討していましたが、なかなか思うような物件が見つからない。でもある日うちのスタッフがネット

でこの物件の情報を発見してからは早かった。『テル美容室』— 初めてこの店の名前を見た瞬間にピンとききましたね。だって、自分の名前にも、この店を任せようと考えていたスタッフの名前にも“テル”が入っていたから。スペースRデザインの方に聞いたところ、ここは“てる先生”と呼ばれてた美容師さんが、なんと60年も営んでらした美容室だという。「てる先生が良ければ、この店のロゴも名前も想いも引き継いで、新しい美容室を始めたい!」って、そう思いました。それまでは、春吉の町はどちらかというと夜の飲食店が集まるイメージだったから、美容室を開くには適してないな、と感じていたんです。でも、『テル美容室』を見たら、そんな考え吹き

飛びました。店の内部は大がかりなリノベーションが必要で、予算以上の費用もかかりそうだったけど、一からこだわって空間を創っているワクワク感の方が大きかった。そして、直感どおりものすごくいい店舗になりました。これからはここ春吉から新しいファッションやスタイルの提案を全国に発信したい。そして、かつての『テル美容室』がそうだったように、『Pluss teru biyousitsu』にもお洒落を楽しむ若い子たちが集まって、昼間も遊びに来たくなるような町になったら楽しいだろうな。現オーナーの下田さんやうちのスタッフともよくこんな話をするんですよ。「街を歩く人の流れを変えるような、新しいムーブメントを起こしたいですね」って。

Pluss teru biyousitsu
Tel: 092.406.6511
Web: <http://pluss.me>

この物語は、続きます。

《現所有者/紅蓉軒2代目店主》下田浩一さん



子 どもの頃、近所の『テル美容室』からきれいな花嫁さんが出てくる光景をよく見ていました。親父が開いた中華料理店を継いでちょうど30年目に、そのテル先生の店が売りに出たと聞き、いろんなご縁を感じて購入することに。初めて店の2階に上がり、そこで山のような花嫁衣裳関係の道具や資料を目にして、「やっぱりてる先生は本物だったんだ!」と感動したんです。というのも、春吉は戦後、九州各地から“目利ぎ”の行商人が集まる町で、今も代々続く“本物”の店が多く残る町なんです。『テル美容室』の後に入ってくれる人を探すときは「この町に長く根付く、本物の人」と思いました。スペースRデザインさんの紹介でお会いした『Pluss』の新銅さんは、まさに私がイメージしていた通りの方。この町でやりたいことをしっかりイメージなさっていて、この人となら面白いことができそうだと感じました。新銅さんが『テル美容室』の名前やロゴをそのまま使いたいと言ってくれたときは、こうして建物や人の想いは引き継がれていくんだと実感。『テル美容室』の物語はまだこれからも続いていく。晴好実行委員会の一員として、私も『Pluss teru biyousitsu』と一緒に、春吉の町に新しい風を運びますので、ご期待ください!

いい人と巡り会えるのは幸せなことよ。

《前所有者》野口照子さん



とんしゃって、いい人に引き継いでもらって良かった—とひと安心。ホント、いい人と巡り会えるのは幸せよ。こげん店がカッコよくなってから、主人もきっと喜んでくれると思いますよ。新しい美容室でも着付けで困ったら呼んでほしいわ、私いつでも来てあげるから、ね。

「テ ル美容室』を開いたのは昭和27年7月7日。その前に私は大名で美容師やってね、その頃知り合った材料屋さんたちが協力してくれて、春吉がどんな町かも知らなかったけどイチかバチかで店を始めたわけ。でもいざ店を開いたらお客様が玄関に並んで待ってらして、そこからはもうがむしゃらに働く毎日やったね。何しろ春吉は水商売の人たちの活気で発展したような町だから、芸妓さんやバーで働く人たちが次々来てくれて。客商売の人たちだったから注文は厳しかったけど、みんなお洒落で粋だったし、春吉もそういう人が行き交う情緒のある町やったよ。そのうち花嫁衣裳の着付けの仕事も増えて、店で着付けて神社まで送り出すこともしょっちゅう。親子三代の花嫁さんを着付けしたこともあるんですよ。あの頃は建物の築年数もだいぶ経ったわけ

ど、亡くなった主人が大工で、うまく修理してくれとったんよね。雨漏りひとつしたことなかった。店を開いてから60年、この町にも店にも、私の若い頃からの思い出がたーくさん詰まっているわけですよ。「100歳まで続けてね」と言ってくれるお得意さんもたくさんいたけど、1人で店やってる私を心配した姪が「ケガしたらどうするの!」って怒るもんだから、仕方なく引退することにしたわけ。店を手放す時はそりゃ寂しかったけど、まさか小さな頃から知ってる近所の下田さんがここを買って、その上に“テルさん”という美容師の人が借りてくれるとはね。人の縁って面白いもんよね。美容組合の人に聞いても、「とて面白い男の子よ」と太鼓判を押し



リフォーム直前の「テル美容室」。2階は和室だった。

昭和レトロな店のロゴや外観を活かした「Pluss teru biyousitsu」。

新しい店内は吹き抜けに。上部の窓からも光が差し込む。

家具や小物も空間の雰囲気に合わせて1つつせレクト。

TERU BIYOUSITSU
テル美容室 (Pluss teru biyousitsu)

【構造・規模】木造 2階建
【築年】不詳
【所在地】福岡市中央区春吉2-18-30

Pluss teru biyousitsu 店舗デザイン：
強力美術工場 SHINOHARA-HIDENORI

今回の対談場所：紅蓉軒店内にて

IN THE CASE of REIZENSOU

共同浴場の魅力を引き継いだシェアオフィス。

リノベーションミュージアム 冷泉荘 | 引力の間

ビンテージビルの魅力を語るうえで、ハズせない建物が[冷泉荘]。その姿にゴールとなる完成形はなく、まだまだ進化の途中である。2013年に新しくオープンしたシェアオフィス「引力の間」も、スペースRデザインらしい風通しのいい発想から生まれた空間だ。そもそも、このビルの1階には入居者専用の浴場があり、銭湯のような住民同士のふれあいの場としても役立てられていた。しかし時代とともに利用は減り、その機能も果たさなくなったのだ。かといって、これほど特徴ある空間を何もなかったことにするのは味気ない。スペースRデザインでは銭湯のような、ふれあいの場としての機能を取り戻すアイデアを出し合った。その結果、情報交換やコミュニケーションを楽しめるシェアオフィス「引力の間」が生まれたわけだ。オフィスには入り口まわりに共同のキッチンやトイレがあり、銭湯のように空間を管理する番頭さんもいる。その奥にゆるやかにつながるのが、デザインが異なる4つのコンパクトな個室。ここを自分の活動拠点とし、打ち合わせなどで広い空間が必要であれば「引力の間」の共有空間を活用することもできる。「引力の間」の上下左右にいる個性豊かな[冷泉荘]の仲間と



の交流も、このオフィスならではの特権。気軽に声を掛け合えるオープンな環境がうれしいと評判だ。シェアオフィスのルールは、連絡帳を付け合ったりミーティングを行ったり、あえてアナログな手法で相談しながらみんなで決めていく。少し面倒だけれど、そこも含めて楽しいし、信頼し合える。共同浴場の魅力を引き継いだ「引力の間」には、不思議とそんな人たちが吸い寄せられるように集まってくる。

RENOVATION MUSEUM -REIZENSOU-
リノベーションミュージアム 冷泉荘

【構造・規模】RC造 5階 地下1階
【築年】1958年(昭和33年)
【所在地】福岡市博多区上川端町9-35



IN THE CASE of SAKURAZAKA YAMANOTESOU

学びと創造の輪、ますます広がる。

桜坂 山ノ手荘



古い木造アパートがリノベートされ、今は「学び」の要素を軸に、好奇心旺盛な人々が集まりつつある[桜坂山ノ手荘]。2013年春にスタートし、絵画教室やWEB制作会社、海産物通販事務所、リラクゼーションサロンが入居している。1階には、一度は暖簾を下ろした博多の老舗和菓子屋の新たな工房が入居。「松屋利右衛門」という新屋号を掲げ、江戸時代から受け継ぐ伝統の技による銘菓・鶏卵素麺づくりを再開している。このように、1棟の中に和も洋もあれば、伝統もトレンドもある。ひとつのテイストに止まらない、様々な要素のミクスチャー感こそが[桜坂山ノ手荘]のおもしろさ。西日本新聞と共催でカフェスタ

イルの語り場「NEWS cafe」や、入居者、市民のメッセージ付きの本が集まる「まちライブラリー」など、集いのきっかけとなる取り組みも多彩だ。思えば、学びの原点は豊かな好奇心。好奇心旺盛な「さくらびと」が集まる[桜坂山ノ手荘]には、これからも自然と学びの輪ができていくはずだ。

SAKURAZAKA YAMANOTESOU
桜坂 山ノ手荘

【構造・規模】木造 2階建
【築年】1972年(昭和47年)
【所在地】福岡市中央区桜坂3-12-81

IN THE CASE of ADONOS DAIMYO

みんなで守ると建物は生き続ける。

ADONOS大名 >> ARK 20



建物の価値は誰かひとりでは守ることはできない。いろんな人が引き継いでこそ、価値あるビンテージビルとして長く生き続けられるのだ。たとえば大名のほぼ中央にある[ARK20]というビルがそうだ。1980年代に建ったこのビルの元の名は[ADONOS 大名]。1Kの物件が集まる共同住宅は築年数を重ねるにつれ、空室が目立ち始めていた。2010年、ビルの再生を託されたスペースRデザインは、立地の良さとコンパクトな設計を逆手に取り、このビルを「Collective SOHO」として発信。大名を拠点にした新時代の働き方を提案し、オーナーや入居者がオープンに交流できる環境を整えていった。その後、[ADONOS 大名]はスパー

スRデザインもよく知る[ARK 7番館]のオーナーに引き継がれ、[ARK20]と改名。前オーナーと私たちでビルに込めた思いは、信頼ある会社に引き継がれた。建物の運命は引き継ぐ人の価値観によって大きく変わる。ビンテージビルは、そのような変遷の中で良き人々によって育てられていくのである。

ADONOS DAIMYO >> ARK 20
ADONOS 大名 >> ARK 20

【構造・規模】鉄骨鉄筋コンクリート造 9階建
【築年】1986年(昭和61年)
【所在地】福岡市中央区大名2-1-20